

今月の星空



川口市立科学館 Kawaguchi Science Museum

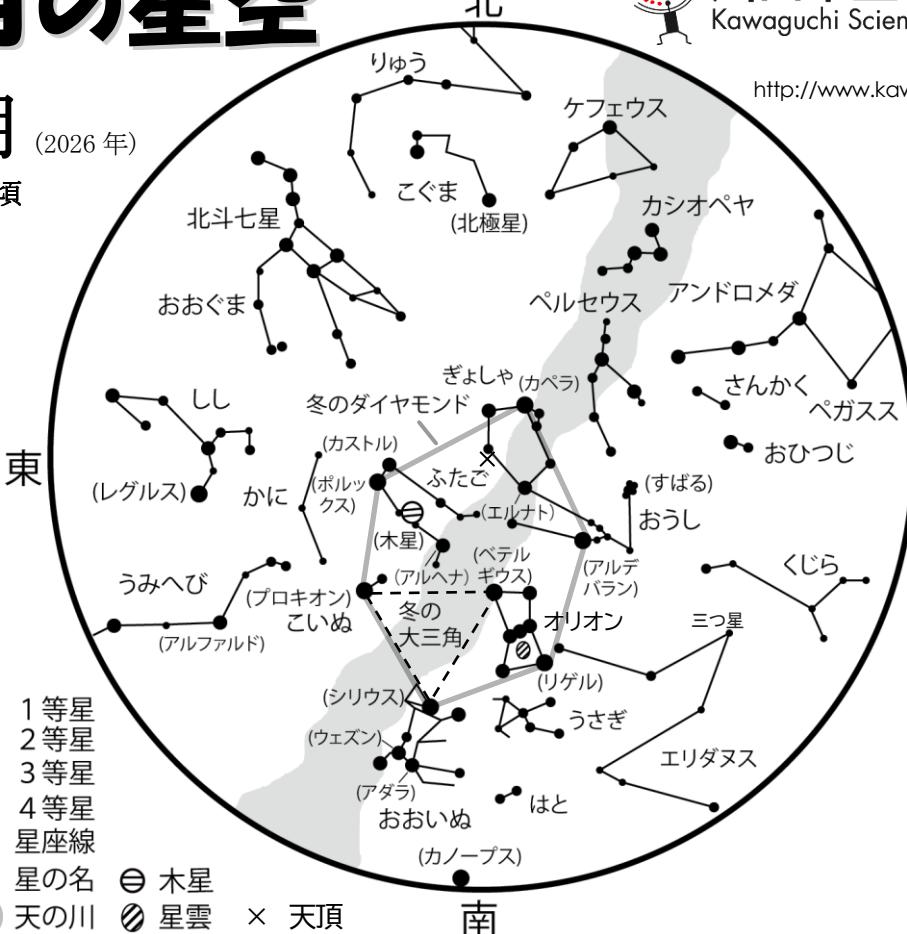


tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

2月 (2026年)

中旬 20 時頃



— 星図の見方

自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

丙



木星とガリレオ衛星(合成)

提供:NASA/JPL/DLR

月 齡 ○ 滿月 2 日、● 下弦 9 日、● 新月 17 日、○ 上弦 24 日

惑星情報 水星 日の入後 西(みずがめ→うお座 -1→0等)※16日～23日頃

木星 夜のはじめ頃 東(ふたご座 -3→-2等) 土星 夜のはじめ頃 西(うお座 1等)

☆冬のステップアップ星座探し

夜のはじめ頃からオリオン座が南の空に昇り、冬の星座を見つけやすい時期になりました。まずは、明るい星が多いオリオン座や冬の大三角から見つけましょう。範囲を広げて、6つの1等星がつくる冬のダイヤモンド（星図参照）を数珠つなぎにたどると、代表的な冬の星座の位置がつかめます。さらに一歩進んで、星座一つひとつをつなげられるように、見つけた1等星の周囲にある2~3等星にも目を向けてみましょう。以下はその一例で、明るめの見つけやすい2等星です。星図を見ながら探してみてください。

- ・エルナト（1.7等、おうし座）…おうしの角の星であり、また、ぎょしや座の五角形の一角でもある。
 - ・アルヘナ（1.9等、ふたご座）…ふたごの足元にある星。ポルックスとベテルギウスの中間に見える。
 - ・ウェズン（1.8等）とアダラ（1.5等、共におおいぬ座）…シリウスの下方で二つの星が並ぶ。

☆注目を集める木星の四大衛星～衛星の内部には海があるのか！？～

今シーズンの冬の夜空で圧倒的な存在感を放つ木星。その木星には70以上の衛星が確認されています。そのうち、小型望遠鏡でも観察できる四大衛星——イオ、エウロパ、ガニメデ、カリストは「ガリレオ衛星」と呼ばれます（右上の図参照）。主に氷や岩石でできたこれらの衛星のうち、イオを除く3つの衛星の内部では、氷が溶けて液体の海が広がっている可能性が指摘されています。そのような衛星たちを詳しく調べるため、2023年4月にはESA(欧州宇宙機関)が主導し、日本も参加する木星氷衛星探査機「JUICE」^{ジュース}が、2024年10月にはNASAの探査機「エウロパ・クリッパー」がそれぞれ打ち上げられました。前者は2031年、後者は2030年の木星系への到着を目指し、宇宙空間を飛行中です。

☆3月3日、条件の良い皆既月食を見よう

3月3日は皆既月食が起こります。今回は多くのかたが観察しやすい時間帯（19時前～22時過ぎ）に起こる好条件の月食です。今後、日本で見られる月食は、2028年7月7日（部分）、2029年1月1日（皆既）としばらく起こりませんので、この機会にぜひ観察してみてください。当日のスケジュールや観察場所（月は東側の空に見える）を事前に確認しておきましょう。当館でも特別観測会（要事前申し込み）を行います。詳しくは科学館ホームページ（右上のQRコード等でアクセス）でご確認ください。